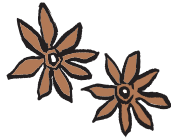


更年期に役立つ漢方



更年期障害とは？



閉経前後に起こる更年期障害は、女性ホルモンが低下することで起きる不調です。基本的に自律神経の乱れの症状なので、身体の不調だけでなく心の不調などがあると起こりやすくなります。

更年期障害には右記のような特徴的な症状はありますが個人差が大きく、自覚症状がほとんどない人もいれば日常生活に支障がでるほど重い症状の人もいます。体調やストレス、運動不足、冷え性、疲労などによって症状の種類やあらわれ方も様々です。



イライラ



ホットフラッシュ



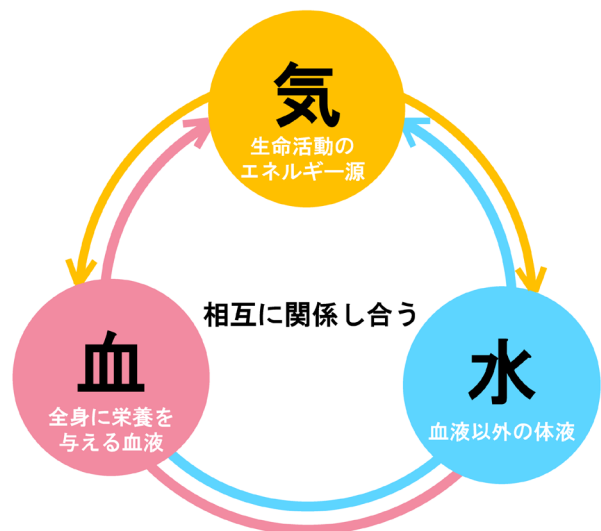
動悸・息切れ

漢方とは？



漢方医学のひとつの考えかたとして、身体は「気（き）」「血（けつ）」「水（すい）」の3つで構成されていると考えられています。身体全体を診て独自の四診（問診、お腹・舌・脈を診る）と呼ばれる方法で、バランスが崩れているところを探り、その人の体質に合った薬を処方しています。また、漢方薬は複数の症状に対して効果があらわれるため、様々な症状を同時に診ることができます。

そのため、個人差があり、様々な症状のある更年期障害は漢方治療が得意とする分野です。





更年期症状によく使われる漢方



とうきしゃくやくさん
当帰芍薬散



足腰が冷える方、めまい、立ちくらみ、頭が重い、肩こり、腰痛、しもやけ、顔色が悪い、むくみやすい、しみ、耳鳴りなどの改善に使われます。

かみしょうようさん
加味逍遙散



体力があまりない人で、肩がこる、めまいや頭痛がするなどのほか、のぼせや発汗、イライラ、不安など、不定愁訴といわれる多様な心身の不調に広く用いられます。

うんけいとう
温経湯

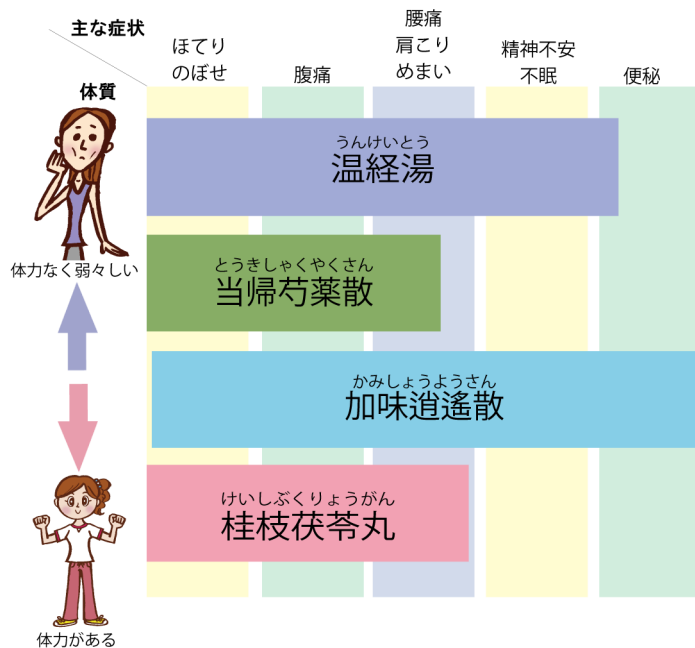


血流異常やお腹が冷えるタイプの人や顔色が悪い人など、更年期障害などの婦人科系の不調によく用いられます。冷えが強いが、のぼせもみられ、手がほてり、唇が乾燥しているような人に向くとされています。

けいしぶくりょうがん
桂枝茯苓丸



比較的体力があり、腹痛、肩こり、頭痛、めまい、のぼせて足が冷える、しもやけなどの改善に使われます。



漢方薬は自然界にある植物や鉱物などから抽出された生薬を複数組み合わせられて作られた薬です。個々の生薬の中には複数の有効成分があり、それぞれに効果を発揮するため、一つの処方でも様々な病気や症状の改善が期待できることがあります。

